

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	2693200020
法人名	医療法人 啓信会
事業所名	グループホーム リエゾン健康村
所在地	〒610-0343 京都府京田辺市大住大坪55-14 (電話) 0774-68-1766

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成20年11月14日	評価確定日	平成21年1月25日

【情報提供票より】(平成20年10月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 10 月 17 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 3 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	7 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建ての 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 円	〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	〇有() 円	有りの場合 償却の有無	償却有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	650 円
	夕食	550 円	おやつ	110 円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	69 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	京都きづ川病院 米田歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都府南部の京田辺市の住宅街にある新築2階建ての建物の2階部分である。この建物ではグループホームのほかに小規模多機能型居宅介護事業所、居宅介護支援事業所、ヘルパーステーション、デイサービスの5事業を運営している。開設1年にしてしっかり基礎ができているのは、法人や老健、先行のグループホームのバックアップの力が大きいと思われる。開設時から地域との関係は良好で、さまざまな協力が得られている。ボランティアの活躍も盛んで、利用者の楽しみとなっている。とくにPTがボランティアで来訪し、利用者ひとりひとりのリハビリテーション計画を立て、職員を指導してそれを実施していることは評価に値する。半年前に交代した管理者は老健での経験が長く、今後その個性が発揮されると思われる。職員は50歳代が中心であり、家事に堪能で生活経験が豊富、資格や経験に勝る介護の力をもち、利用者に温かい介護をしている。一方若い職員は資格取得や研修受講に意欲的であり、両者のチームワークにより、利用者は個性的で生き生きしており、表情が豊かである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は職員に意見を聞いて、自己評価をまとめている。職員にとっては良い気付きになったと考えている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は小規模多機能型居宅介護とグループホームと合同で2ヶ月に1回開催され、記録が残されている。両事業所の利用者、家族、自治会長、区長、老人会長、民生委員、京田辺市健康介護課職員、地域包括支援センター職員等がメンバーとなり、地域情報を得る良い機会となっている。「退屈でたまらん」という利用者の意見で、毎日のレクリエーションに力を入れている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>いままでのところ家族からの意見はない。12月に利用者や家族とともに琵琶湖へバス旅行を計画しているので、それをきっかけに家族同士の交流が深まることを期待している。今後家族同士の交流が深まれば、家族から運営に関する忌憚のない意見がでくるとと思われる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設にあたって地域にたいして説明会を開催したが、友好的に受け入れてもらっており、協力的である。町内会に加入し、「ふれあいの日」、文化展等の地域行事に利用者とともに参加している。老人会にも参加しており、地域のボランティアの協力も多い。地域住民からの野菜や果物のさし入れをいただいている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念は「家族としての、家族のための、家族愛の介護——心あたたかく、微笑と夢のある日々を」であり、ホーム内に掲示している。これは当時の職員からの公募で決められている。当事業所も開設以来、この理念にそって運営されてきている。現在満1年を迎え、機が熟してきたところで、独自の理念を検討したいと考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の理念は、職員すべてに研修で周知徹底されており、日常の業務においても、管理者を中心に理念の実践に向けての方向性の徹底が行われている。契約書には利用者等の権利および義務が明記され、利用者主体の介護を行うことが明白となっている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設にあたって地域にたいして説明会を開催したが、友好的に受け入れてもらえており、協力的である。町内会に加入し、「ふれあいの日」、文化展等の地域行事に利用者とともに参加している。老人会にも参加しており、地域のボランティアの協力も多い。地域住民から野菜や果物のいただきものも多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が第1回目の評価受審であるが、管理者は職員に意見を聞いて、自己評価をまとめている。職員にとっては良い気付きになったと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は小規模多機能型居宅介護とグループホームと合同で2ヶ月に1回開催され、記録が残されている。両事業所の利用者、家族、自治会長、区長、老人会長、民生委員、京田辺市健康介護課職員、地域包括支援センター職員等がメンバーとなり、地域情報を得る良い機会となっている。「退屈でたまらん」という利用者の意見で、毎日のレクリエーションに力を入れるなど、改善されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	京田辺市の3つのグループホームが互いの事業所を訪問しあつて、合同推進会議を行っており、情報交換したり、勉強会をしようと相談している。今後は介護教室や講演会等を開催して、地域貢献したいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は非常に多く、どの家族も月に2回以上来訪されている。その際にお互いに情報交換している。家族と一緒にでないと外出しないという利用者のために、家族に来てもらったりもしている。金銭管理の報告をしていなかったのも、今後していく予定である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いままでのところ家族からの意見はない。12月に利用者や家族とともに琵琶湖へバス旅行を計画しているので、それをきっかけに家族同士の交流が深まることを期待している。	○	今後家族同士の交流が深まれば、家族から運営に関する忌憚のない意見がでてくると思われる。ホームと家族とが車の両輪のように、良いグループホームのために協力しあえる関係が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間に3人の退職があつたが、いずれも非常勤職員であり、その後は落ち着いている。安易な離職を防ぐために、シフトの工夫や有給休暇の消化を奨励し、歓送迎会などの飲み会を開催、意見が言いやすい雰囲気をつくるなどの努力をしている。グループホームでは利用者と職員のなじみの関係が重視されるので、法人の都合による異動はなるべくおこなわないことが期待される。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の新人研修は実施されており、すべての職員が受講している。資格取得にも支援しており、職員も意欲的に挑戦している。一人ひとりの職員の力量を判断して、業務を任せなどにより力を伸ばす工夫をしている。	○	法人内での段階を追った系統的な研修計画を立て、実施するとともに、外部研修も積極的に受講し、報告会などにより、伝達研修をおこなうこと、ホーム内で勉強会をおこなうことなどが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京田辺市内の3つのグループホームとの連絡は、互いのグループホームを訪問しあつて行われており、開設前には宇治市のグループホームを見学している。今後は職員には他のグループホームを見学する機会があることが期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込があると、まず併設の小規模多機能型居宅介護事業所を利用してなじんでもらうことを勧めている。また見学も奨励しており、家族とともにホームにきて昼食を食べる人もいる。利用が始まると、利用者同士の関係に最も配慮しており、職員が間に入って、気の合う利用者との関係を支援している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から学ぶことが多いと感じている。料理などはよく教えていただく。昔の風習や言い習わしなどを聞き、感服することがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始にあたっては管理者、看護師、ケアマネジャー等が利用者の居宅を訪問し、利用者や家族から希望を含め、じっくり情報を収集している。東京センター方式のアセスメントに挑戦し始めており、生活歴の聞き取りも、今後さらに充実していく予定である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントにより、ケアマネジャーが介護計画の原案を作成し、会議において職員で検討し、確定している。生活歴や得意なこと、趣味などが介護計画に十分生かされていないことと、できないことの介護だけでなく、できることを見つけて生きがいのある生活になるようなプラス志向の介護計画が少ない。	○	生活歴や、利用者のできることできないこと、趣味、好きなこと等の情報をできるだけ収集するとともに、それを介護計画に生かすこと、そして1日に1回でも笑顔が出るようなポジティブケアプランにすることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当職員とケアマネジャーが、毎月モニタリングをおこなっており、介護計画の見直しについて検討している。カンファレンス会議の記録は、意見等は書かれておらず、結論のみが記録されている。	○	毎日の支援経過記録は介護計画の項目にそって、実施したかどうか、実施したときの利用者の表情や言葉などの観察内容、そして職員が観察した結果の考察を記録することにより、モニタリングにつながることを望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行きつけの理容院、美容院への同行は家族にお願いしている。ボランティアによる器楽演奏の鑑賞や理学療法士によるリハビリテーションの実施など、併設の5事業所との連携により利用者や家族のニーズに対応している。個別外出は今後期待される。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医への通院は家族にお願いしているが、時には職員が同行しており、緊急時には職員同行である。ホームでの状態を伝え、医師からの情報も得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の希望があれば、ターミナルケアを行う方針であり、「終末期における利用者への対応」という文書にマニュアルと緊急連絡網が書かれている。職員への研修も実施している。今後は利用者や家族にホームの方針を十分説明して、ターミナルケアを希望される場合は同意書を書いていただくなどが期待される。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレの戸の開けっ放しや、トイレ誘導の声かけには十分注意している。居室も必ずノックして入っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は8時、昼食は12時、夕食は6時と、おおよその日課は決まっているが、利用者によっては朝寝をして朝食の時間に起きていない人もいる。就寝時間もそれぞれのペースである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は委託業者が調理済みのものをもってくるので、暖めたり、盛り付けたりしている。朝食と夕食は利用者の希望等も含めて献立をたて、職員が食材の買い物に行き、利用者とともに調理し、職員も一緒に食べている。おやつの手作りや誕生日のケーキも手作りにしている。昼食もつくってはどうかと、職員から意見がでているので、今後は作る予定である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後が多いが、行事のあるときは午前中にも入る。週3回は入浴できるように支援しているが、毎日入る利用者もいる。マンツーマンの同性介助である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗い、調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ、雑巾掛け、ゴミ捨てなどの家事を利用者はおこなっている。貼り絵、塗り絵、書道、季節のタピストリーづくり、カラオケ、囲碁等を楽しんでいる。ボランティアによる三味線、ピアノ、大正琴などの演奏も利用者の楽しみである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園に散歩に出かけるが、あまり人に会わないこと、近くに買い物に行ける店がないことに苦慮している。京田辺市文化祭、京田辺市敬老会、きつ川病院健康祭り等に出かけている。宇治市植物園やコスモスを見に行ったり、外食やドライブに出かけたりしている。12月には琵琶湖へのバス旅行を計画している。利用者の個別外出はいまのところ家族が連れて行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路からのドア、グループホームへ上る階段やエレベーターは開放されているが、グループホームに入るドアはロックされており、職員が開けることになっている。	○	利用者にとって、自分の力でドアを開けることができないことのデメリットを考え、センサーやチャイムにしたり、利用者の状態によってはロックをはずしておくなど、臨機応変に対応することが求められる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、感知器、通報機、スプリンクラー、防火管理者等が設置され、消防計画が立てられ、避難訓練を実施している。食糧の備蓄の対策がないので、検討が望まれる。地域との協体制度は運営推進会議のなかで話し合わせ、地域からの協力の約束をいただいている。協定書の形で残すことが期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録に残されている。水分摂取量は把握されているが記録には残していない。献立についての栄養バランス等は法人の管理栄養士に点検してもらっているが、記録には残されていない。	○	利用者の水分摂取量も簡単に記録に残すと共に、献立のカロリー値と栄養バランスは、1カ月に1回くらい、管理栄養士の点検を受け、コメントなどを記録に残しておくことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームのドアを開けると、大きなガラス窓から明るい日差しがさしこむ広い居間があり、手前にキッチンがある。観葉植物の鉢、花瓶に季節の花、メダカの水槽、食卓にも小菊の輪挿し、壁には利用者の手による書道、絵画等が掛けられている。浴室は家庭的で入りやすい。狭いながらもベランダがあり、洗濯物を干している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には花の名前をつけている。暖簾をかけている人もいる。洋室と和室があり、じゅうたんを敷いている人もいる。ベッド、整理ダンス、衣装掛け、椅子、テレビ、パソコン、位牌等が持ち込まれ、壁には家族や孫の写真、妻のつくった貼り絵の額等が飾られている。夫婦で利用している人は1室にマットレスを並べて寝室にし、1室は椅子やテーブル、ダンス等で2人の居間にし、暮らしやすく工夫されている。		